

「社会的とりこぼし」を防ぐ ネットワーク・ミーティング

～「制度の隙間」の親子に出会い、つながり、支えるために～



バディチームはこれまで 15 年間、養育困難家庭をはじめさまざまな事情を抱える家庭に対する訪問型の支援に取り組んできました。行政と仕事をしているからこそ見える「隙間」があり、地域住民と協働しているからこそ届けられる支援があります。社会的にとりこぼされている家庭に対する支援の、その「リアル」の一片を、現場で汗を流しているみなさんと共有したいと願い、オンラインイベントを開催しました。このチラシは、その開催レポートとしてお届けするものです。

出演者



岡田妙子
NPO法人 バディチーム 代表



渡邊恵理子
社会福祉法人
文京区社会福祉協議会
ささえあいサポート係 係長



田中薫
NPO法人 バディチーム
子育てパートナー



濱田社摩
NPO法人 バディチーム 理事

進行



岡田妙子

「とりこぼし」を防ぐ取り組み 1 年目の中間報告

私たちは、昨年 15 周年を迎えました。これまでは制度上の養育支援訪問や食支援などの分野で活動してきましたが、期間や対象、支援内容などの制約による限界や心配も感じるがありました。多くの家庭に適切な支援が行き渡っていない可能性を感じていました。

制度に繋がらないという理由では、まずは制度自体を知らなかったり、本人も専門機関も知らなかったりすることがあります。また、公的支援に繋ぐまでに時間がかかる場合もあります。また、住民票がない場合や所得制限があるため、制度を利用することができないこともあります。このような問題は行政に対する拒否感や、過去に窓口で嫌な思いをしたことがあるという方にとっては特に深刻です。

制度につながらない



養育支援訪問事業は再来年度より新たに子育て世帯訪問支援事業として始まりです。昨年 10 月に厚労省に要望書を提出し、その中では、家庭・行政・現場支援者の間に入り、様々な調整を行うコーディネーターの存在が重要で、その手当や研修も必要だということを伝えていきます。一方で、現在の制度の中でも改善できる点があると思われます。例えば行政の仕様書に「その他区長が認めるもの」とあれば担当ワーカーと相談して、ちょっとした例外対応を検討してみるなど、柔軟に対応できるようにと考えています。同じ制度の枠内であっても、施設や事業所によってやっていることはずいぶん違うということも感じています。これは自戒も込めて、もう一歩、枠を超えてできることに取り組んでいきたいと考えています。

制度の狭間・社会的取りこぼしを防ぐために

既存の支援体制の見直し

- ・子育て世帯訪問支援事業
- ・東京都里親家庭支援事業
- ・育児家事援助者派遣
-

既存の支援体制の中で出来ること

- ・出来ることの可能性を広げる
(モデル事業として
例外事項設定から)
-

バディチームがこの一年で見えてきたことで
皆さんが現場で見えている制度の狭間については...



渡邊恵理子

住民参加型事業を通じて

私が担当しているのは、「いきいきサポート」「みまもり訪問」「ファミリー・サポート・センター」の、住民参加型の事業です。その中で「とりこぼし」が生まれる背景として私が感じるの、一つ目は地域でのつながりが持ちづらいことです。子育てをしている場所と育った場所が同じでないことが、文京区はじめ都市部で多いと思われます。二つ目に、子育て世代と社会設計のミスマッチがあるのではないかということです。例えばがんについては、30 代や 40 代からがんになる方が急激に増える傾向があるようです。また精神疾患についても 40 代や 50 代が最も多く、「子育て期」に治療が長引きやすい病気になる人が増えている一方で、治療中の親の子育てを支援する社会資源は不足しています。子育て世代は元気だという前提で世の中が設計されているように感じます。

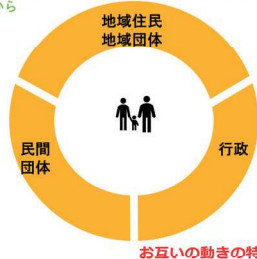
フォーマル資源と インフォーマル資源が交わる場がない

- ▶ そもそも専門職同士でも交流・相談の機会が少ないのではないかと報告の場はあるかも。...
- ▶ 専門職だけでは解決できないケース(制度の狭間と呼ばれる)でよくある相談
「何か紹介できる地域資源はないですか？」
顔が見えない関係のまま「バトンのように突然繋がるケース資源、じゃなくて「〇〇さんたちがやっている〇〇の活動」として連携していく必要性

今は共通言語を話せていない状況

三つ目は、フォーマル資源とインフォーマル資源が交わる場がないという問題です。

フォーマルもインフォーマルも同じテーブルについて同じ景色を
見るところから



自分たちの専門分野については詳しいけれど、他の仕組みではどうかというときに、自分が切れるカードを持っていない専門職もまだまだいるのではないかと思います。要は、交流や相談の場がないという問題があるように感じます。同じテーブルに地域住民・団体、民間団体、そして行政の方々が集まり、お互いが同じ景色を見てお互いの動きの特徴を理解しあう場ができるように、社協としても今後していければと思います。



田中薫

現場支援者の実像

10年間主婦として過ごした後、自分が会社員として戻れるということが想像できなくなってしまっていました。子育てを通して地域活動はやっていたので、そういうことならできるかなということで、地域の家庭支援センターや社協のボランティアから始めましたが、やっていくうちに事業の背景課題にも興味をもつようになりました。

家庭に入る前にはデータのことはあまり気にしないようにしています。文字で読むのと実際とは全然違ったりすることもあるので、固定観念をもって入らないようにしています。あとは、その家にはその家のルールや生活様式があるので、変えた方がいいと思うことがあっても、まずはそれに従うように心がけています。

最初の頃は「改善されたいな」と強く思って現場に向かっていました。目に見える成果を出すことでやりがいを得ようとしてしまっていたのですが、それはやはり難しいことで、今は、しばらく通ううちに結果として何か変化が見えれば、それでいいかなと思うようになっていきます。

この境地に至ったのは（活動が）10年を過ぎてからです。訪問先に自分の背景は持ち込まないし、同時に訪問先から出た後には、それを家に持ち帰らないように、頭を切替える作業をしています。お話をしているしんどい時もありますが、私が悲しんだり辛い思いをしても、その家庭がよくなるわけではないので。

子どもが困ったことを話せる場所を用意するのは大人の側の問題かなと思いますが、それはどこかの施設の職員でもいいし、学校の先生でも、近所のおばちゃんでもいいはず。私はそういう環境をつくっていくことが、地域支援の最初の一歩かなと思っています。

質疑応答



渡邊

すぐに成果が見えなかったり、結果が出なかったりすることで、活動を続けられなくなってしまう人もいます。事業者側でどのような働きかけをすることができれば現場支援者が活動を続けられると思いますか？



田中

困っていることを聞いてもらったり、話せるような環境を整えることは非常に重要だと思います。真面目で頑張っている人ほど、苦しい思いをすることもありますから。



濱田

パディチームの事務局員は、全員が専門職というわけではありません。必ずしも専門的なアプローチでの助言ができるわけではありませんが、必ずしも専門的な助言が功を奏するわけでもないのがこうした支援でもあり、現場と一緒に悩んで伴走する、というスタイルといえるのではないかと思います。



濱田

個人情報について、渡邊さんが実際に、個人情報が壁になって支援が進められなかったような場面はありますか？



渡邊

社協が地域にアウトリーチして見つけた課題を専門職につないだ後、その後どうなったかが見えにくいことはあります。これはフォーマル（専門職）とインフォーマル（地域団体）の人たちが一堂に集まって、個人情報とは何ぞやというコンセンサスをとる機会がないことも背景にはあると感じます。



岡田

私の周りでは地域で支援を立ち上げる力のある方が、気になる親子についてこちらからは行政に伝えるけれども、向こうからは個人情報だから何も言えないとシャットアウトされてしまうと、怒っている人たちがすごくたくさんいるなと感じています。

参加者

社協の「ファミリーサポート」「いきいきサポート」と、パディチームの「子育てパートナー」は、提供される内容はほぼ同じと理解していいでしょうか？



田中

ファミサポは「養育支援」というほどではなく内容的にそれほどヘビーではない、というのが大きな違いかなと思います。



渡邊

実は、ファミサポや「いきいき」に心配な方もいます。困っている方は身近なサービスから探すことになるので。そうした課題のある家庭については、専門機関につなげています。また、相談員が訪問したときにはわからなかったことも、実際に支援が始まったら家庭の課題がわかったというようなケースもあります。

さらに詳しいものについてはパディチーム HP に記事とアーカイブを掲載しています。ぜひご覧ください！



NPO 法人パディチーム

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-28-830

TEL : 03-6457-5312

MAIL : honbu@buddy-team.com

HP : <https://buddy-team.com>

2007年設立。様々な事情や背景があり子育てが困難な状況にある家庭や里親家庭等に訪問し、保育・家事・送迎・学習などの支援を通じて親子に寄り添う。

受託実施事業

養育支援訪問事業（都内13区）

里親家庭むけ訪問型支援事業（東京都・江戸川区・世田谷区）

区民有償ボランティアによる食支援等事業（江戸川区・世田谷区）